

みやぎ経済月報

(2005年11月)

平成17年11月24日

目	次	
本県の経済概況	1
主な指標の動き	3
鉱工業生産指数	9月	3
大口電力使用量	9月	3
新設住宅着工戸数	9月	4
公共工事請負金額	10月	4
大型小売店販売額	9月	5
乗用車新車登録台数	9月	5
消費者物価指数	10月	6
求人倍率	9月	6
所定外労働時間	9月	7
実質賃金指数	9月	7
企業倒産	10月	7
宮城県景気動向指数(概要)	8
全国・東北等の景況	9
主要経済指標	12

利用される方に

この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によったもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合があります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

統計表の符号は次のとおりです。

- 「 」 負数
- 「...」 数字が得られないもの
- 「 - 」 該当数字がないもの
- 「 p 」 速報値または暫定値

みやぎ経済月報は毎月最終月曜日頃に公表しています。

内容についてのご照会、ご意見は、
 宮城県企画部統計課(分析所得班)
 〒980-8570
 仙台市青葉区本町三丁目8番1号
 電話 022-211-2453(直通)
 にご連絡下さい。

本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

宮城県統計課ホームページ
<http://www.pref.miyagi.jp/toukei/>

本県の経済概況

(下線部は前月からの主要変化部分。⇨ は変化方向)

9月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、特定業種では高水準の生産が続いているが、全体の基調としては横ばい傾向が続いている。住宅投資は貸家が増加している一方、持家は低調に推移している。公共投資は低調である。個人消費は、一部で足もとに動きがみられるものの、低調に推移している。企業倒産は、件数、負債総額ともに増加となった。雇用は緩やかな改善の動きにやや足踏み感がうかがわれる。

このように、景気は緩やかな持ち直しの動きは続いているものの、一服感を解消させるには至っていない。

⇨ ⇨ ⇨
前々月 前月 当月

[前月の概況]

8月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、特定業種では高水準の生産が続いているが、全体の基調としては横ばい傾向が続いている。住宅投資は貸家、分譲住宅に動きがみられるものの、持家は低調に推移している。公共投資は低調である。個人消費は低調に推移しているが、一部で足もとに動きがみられる。企業倒産は、件数、負債総額ともに増加となった。雇用は緩やかながらも改善の動きが続いている。

このように、景気は緩やかな持ち直しの動きはみられるものの、一服感を解消させるには至っていない。

⇨ は月の変化方向。

生産 ⇨ ⇨ ⇨
前々月 前月 当月

鉱工業生産指数(9月)は、前年同月比が2か月ぶりに低下となった。前月比は、3か月連続の上昇となった。大口電力使用量(9月)は、前年同月比が2か月連続の増加となった。

住宅投資 ⇨ ⇨ ⇨
前々月 前月 当月

新設住宅着工戸数(9月)は、前年同月比が貸家で8か月連続の増加、分譲住宅は2か月連続の減少となった。持家は7か月連続の減少となった。

全体では2か月ぶりに増加となった。

公共投資 ⇨ ⇨ ⇨
前々月 前月 当月

公共工事請負金額(10月)は、前年同月比が国は2か月ぶりに減少、県は11か月連続の減少、市町村は2か月連続の増加となった。

全体では3か月連続の減少となった。

大型小売店 ⇨ ⇨ ⇨
前々月 前月 当月

大型小売店販売額(9月、百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較)は、前年同月比が19か月連続の減少となった。百貨店は前年同月比が2か月連続の減少、スーパーは前年同月比が36か月連続の減少となった。

自動車 ⇨ ⇨ ⇨
前々月 前月 当月

乗用車新車登録および届出台数(9月・普通、小型、軽自動車の合計)は、前年同月比が3か月ぶりに増加となった。前年同月比は小型車が6か月連続の増加、軽自動車も6か月連続の増加となった。普通車は4か月連続の減少となった。

物価 ⇨ ⇨ ⇨
前々月 前月 当月

仙台市消費者物価指数(10月)は、生鮮食品を除く総合指数は、前年同月比が5か月連続の下落となった。総合指数は、前年同月比が5か月連続の下落となった。

雇用 ⇨ ⇨ ⇨
前々月 前月 当月

求人倍率(9月)は、有効は3か月連続の低下となった。新規は4か月ぶりに上昇となった。

所定外労働時間(製造業・30人以上)(9月)は、前年同月比が減少となった。実質賃金指数(同)(9月)は、上昇となった。

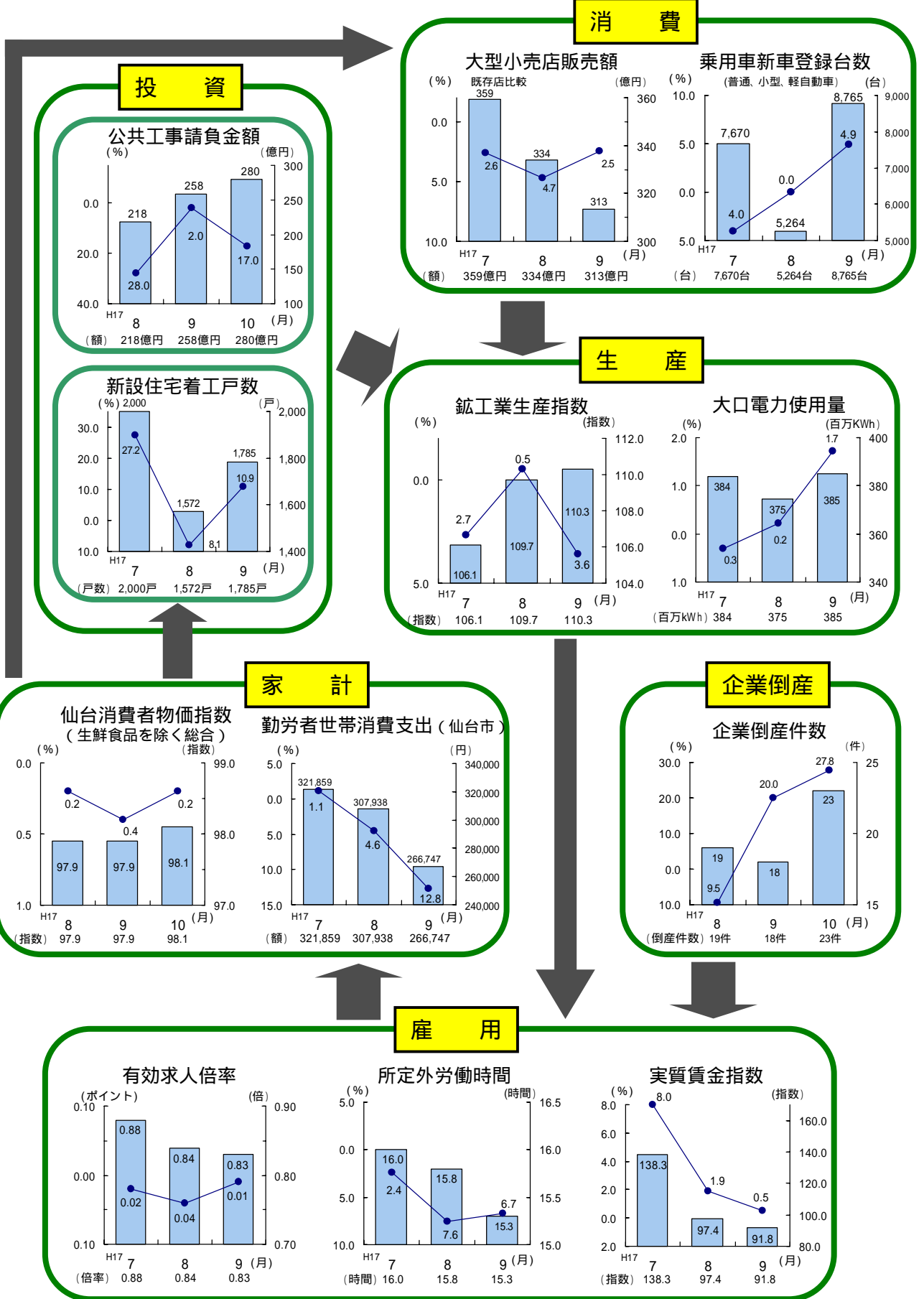
企業倒産 ⇨ ⇨ ⇨
前々月 前月 当月

企業倒産(10月)は、件数は前年同月比が2か月連続の増加となった。負債総額は前年同月比が2か月連続の増加となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は2件発生し、6か月連続の発生となった。

直近3か月の経済動向(前年同月比の動き)

については、前月差
■ は実数値(左目盛)
● は前年同月比の推移(右目盛)



主な指標の動き

1 生産

(1) 鉱工業生産指数

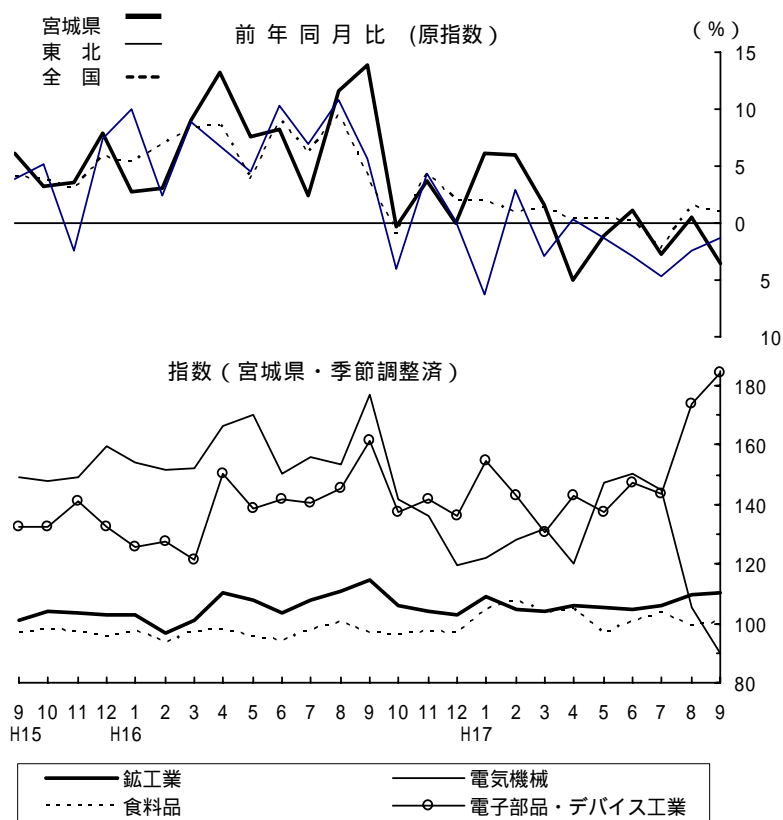
9月の鉱工業生産指数(季節調整値、平成12年=100)は110.3(速報値)で、前年同月比(原指数比較)3.6%の低下となり、2か月ぶりに低下となった。

業種別の前年同月比をみると、電子部品・デバイス工業、化学、石油・石炭製品工業、食料品工業など11業種が上昇となった。

一方で、電気機械工業、精密機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業など8業種が低下となった。

なお、前月比は0.5%の上昇となり、3か月連続の上昇となった。

(資料：県統計課)

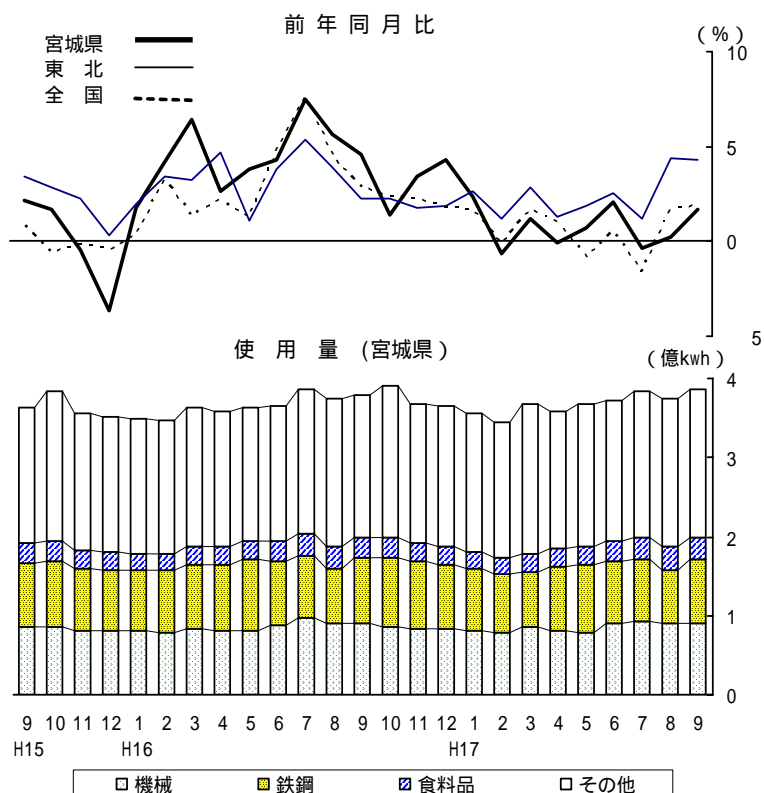


(2) 大口電力使用量

9月の大口電力使用量(契約電力500kw以上)は3億8,498万kWhで、前年同月比1.7%の増加となり、2か月連続の増加となった。

業種分野ごとに前年同月比をみると、食料品分野は1.9%の増加となり、2か月連続の増加となった。機械分野は0.3%の増加となり、2か月連続の増加となった。鉄鋼分野は2.9%の減少となり、8か月連続の減少となった。

(資料：東北電力(株))



2 投 資

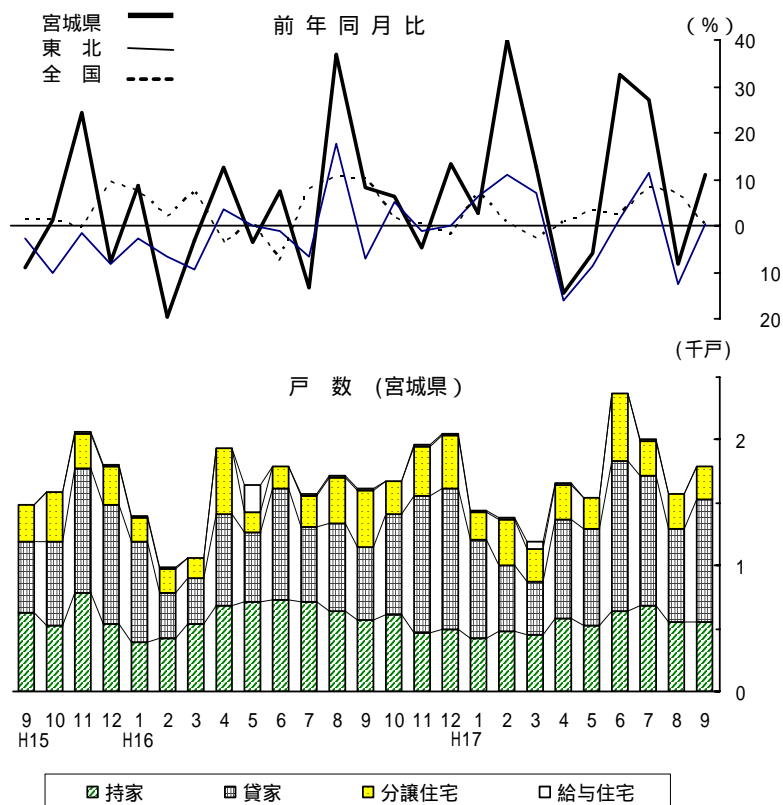
(1) 新設住宅着工戸数

9月の新設住宅着工戸数は1,785戸で、前年同月比10.9%の増加となり、2か月ぶりに増加となった。

利用関係別に前年同月比をみると、貸家は67.6%の増加となり、8か月連続の増加となった。

一方、分譲住宅は42.9%の減少となり、2か月連続の減少となった。持家は3.1%の減少となり、7か月連続の減少となった。

(資料：国土交通省)

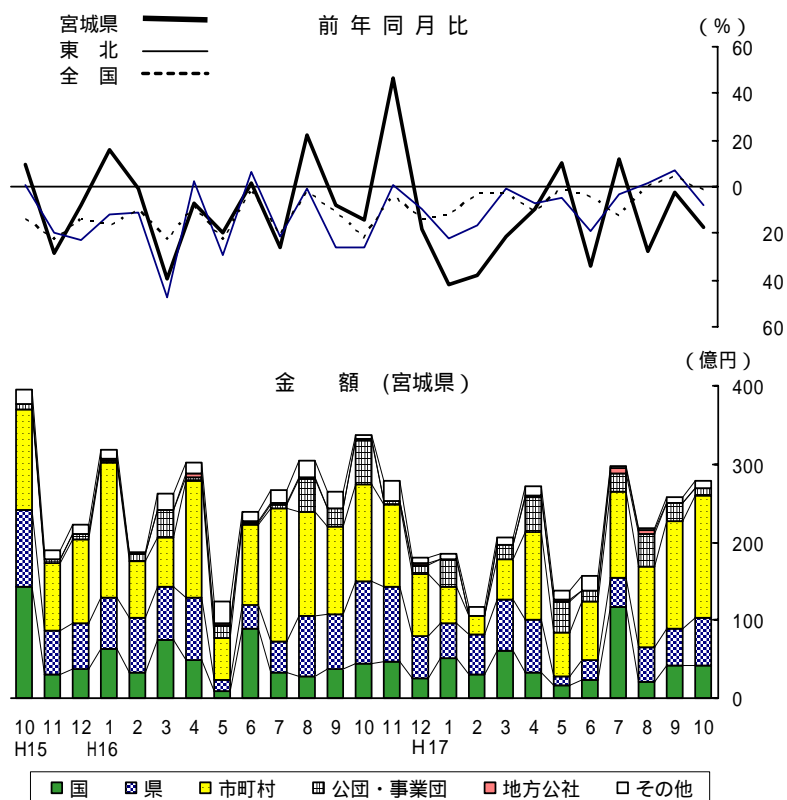


(2) 公共工事請負金額

10月の公共工事請負金額は279億5,300万円で、前年同月比17.0%の減少となり、3か月連続の減少となった。

発注主体別に前年同月比をみると、国は3.5%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。県は43.0%の減少となり、11か月連続の減少となった。市町村は25.6%の増加となり、2か月連続の増加となった。

(資料：東日本建設業保証(株))



3 消 費

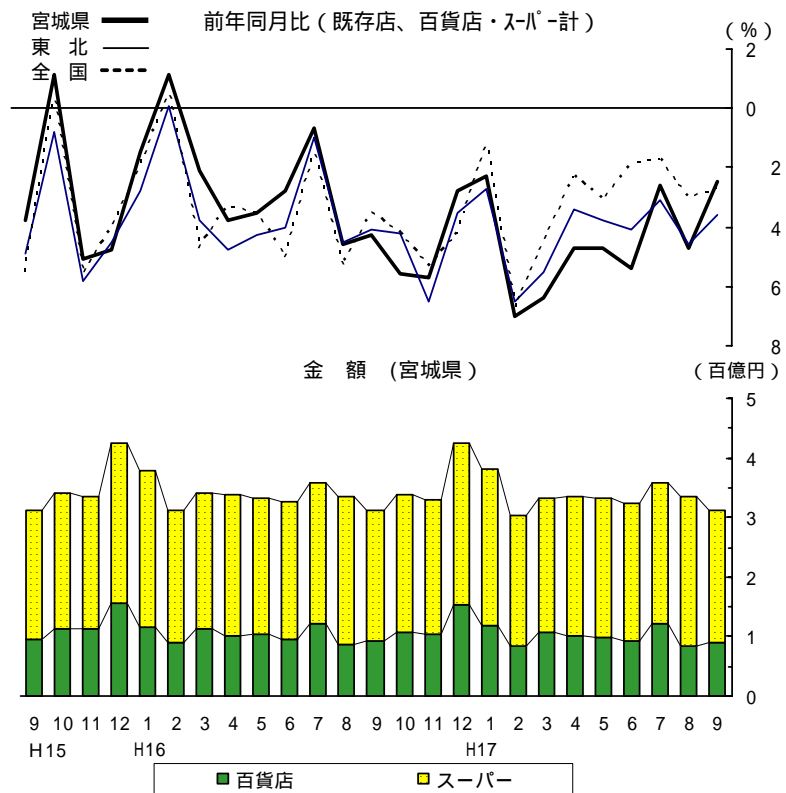
(1) 大型小売店販売額

9月の大型小売店販売額（百貨店・スーパーの売上総額）は313億4,300万円で、前年同月比（既存店比較）2.5%の減少となり、19か月連続の減少となった。

業態別に前年同月比（同）をみると、百貨店が2.7%の減少となり、2か月連続の減少となった。スーパーは2.4%の減少となり、36か月連続の減少となった。スーパーの全店舗比較では2.3%の増加となり、5か月連続の増加となった。

品目別に前年同月比（既存店比較）をみると、飲食料品が15か月連続、衣料品が14か月連続、身回り品が8か月連続で、それぞれ減少となった。

（資料：東北経済産業局）

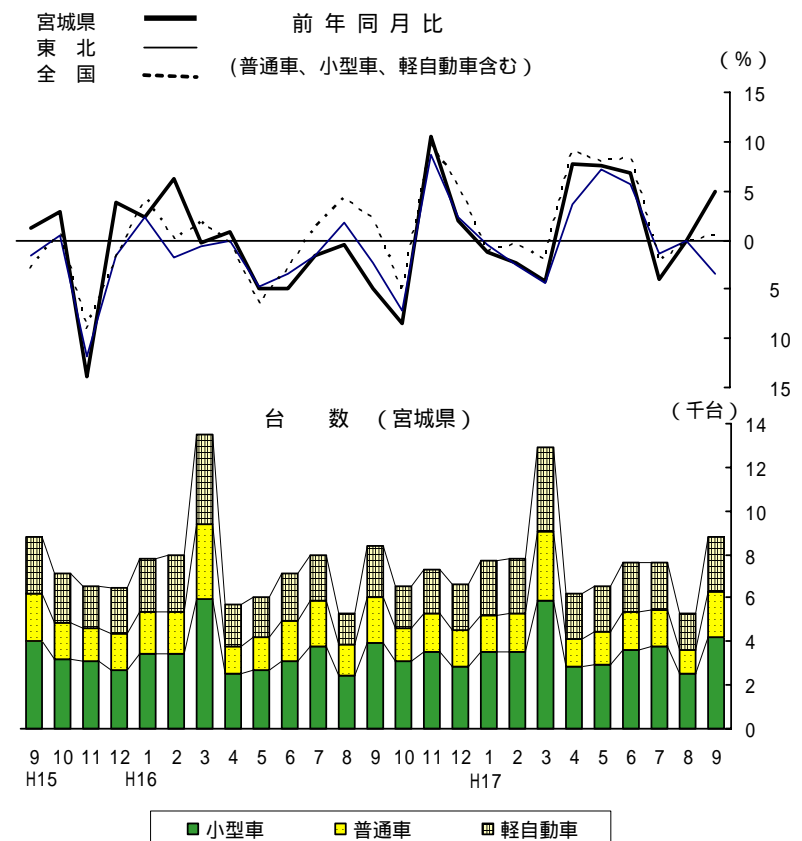


(2) 乗用車新車登録台数

9月の乗用車新車登録及び届出台数（普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計）は8,765台で、前年同月比4.9%の増加となり、3か月ぶりに増加となった。

車種別に前年同月比をみると、普通車（排気量2,000cc超）は2.6%の減少となり、4か月連続の減少となった。小型車（排気量2,000cc以下）は8.0%の増加となり、6か月連続、軽自動車は6.5%の増加となり、6か月連続の増加となった。

（資料：自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車連合会）



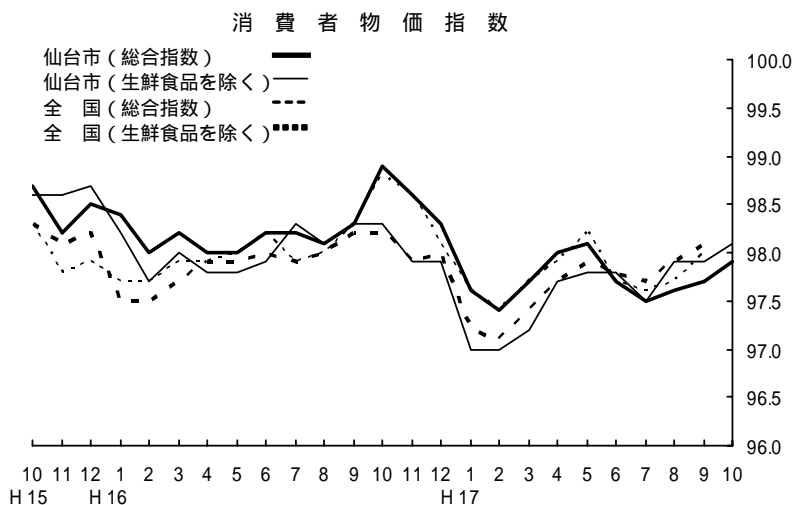
4 物 価

10月の仙台市消費者物価指数のうち生鮮食品を除く総合指数(平成12年=100、中旬速報値)は98.1で、前年同月比0.2%の下落となり、5か月連続の下落となった。また、前月比は0.2%の上昇となり、2か月ぶりに上昇となった。

総合指数(同)は97.9で、前年同月比1.0%の下落となり、5か月連続の下落となった。また、前月比は0.2%の上昇となり、3か月連続の上昇となった。

10大費目別に前年同月比をみると、光熱・水道などが上昇し、食料、被服および履物などが下落した。

(資料:県統計課)



5 雇 用

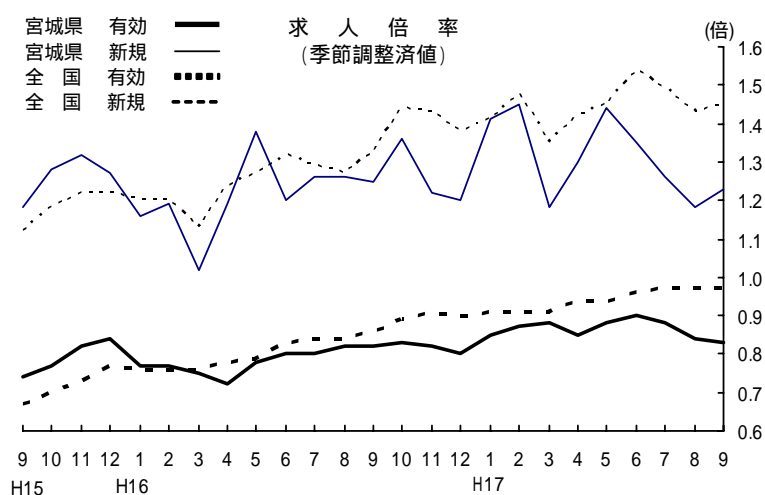
(1) 求人倍率

9月の有効求人倍率(求人数/求職者数、季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)は0.83倍で、前月を0.01ポイント下回り、3か月連続の低下となった。新規求人倍率(同)は1.23倍で、前月を0.05ポイント上回り、4か月ぶりに上昇となった。

月間有効求人数及び新規求人数(新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効が前年同月比0.2%の増加となり、17か月連続の増加となった。新規は前年同月比0.1%の増加となり、3か月ぶりに増加となった。

産業別の新規求人数(一般)では建設業は9か月連続の増加、サービス業は3か月連続の減少、製造業は2か月ぶりに減少となった。全体では3か月ぶりに増加となった。

(資料:宮城労働局)

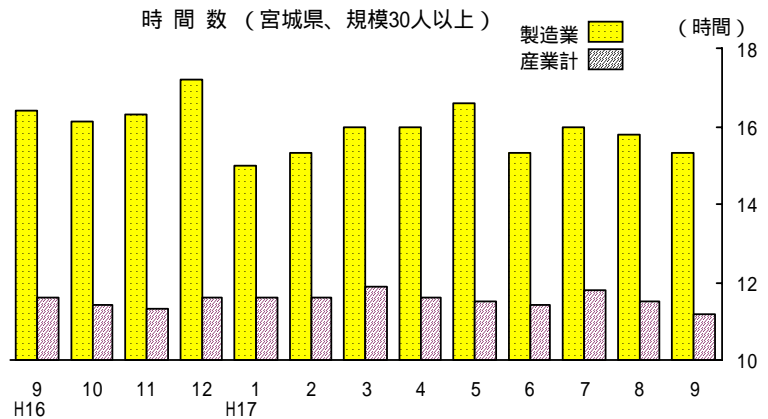


(2) 所定外労働時間

9月の所定外労働時間（製造業、事業所規模30人以上、1人平均月間）は15.3時間で、前年同月比6.7%の減少となった。

調査産業全体（事業所規模30人以上、1人平均月間）では所定外労働時間は11.2時間で、前年同月比3.5%の減少となった。

（資料：県統計課）

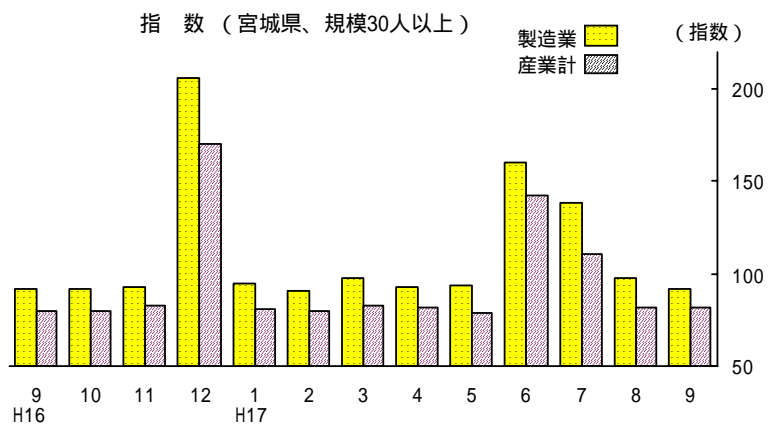


(3) 実質賃金指数

9月の実質賃金指数（平成12年=100、現金給与総額、製造業、事業所規模30人以上）は91.8で、前年同月比0.5%の上昇となった。

調査産業全体では81.8で、前年同月比2.6%の上昇となった。

（資料：県統計課）



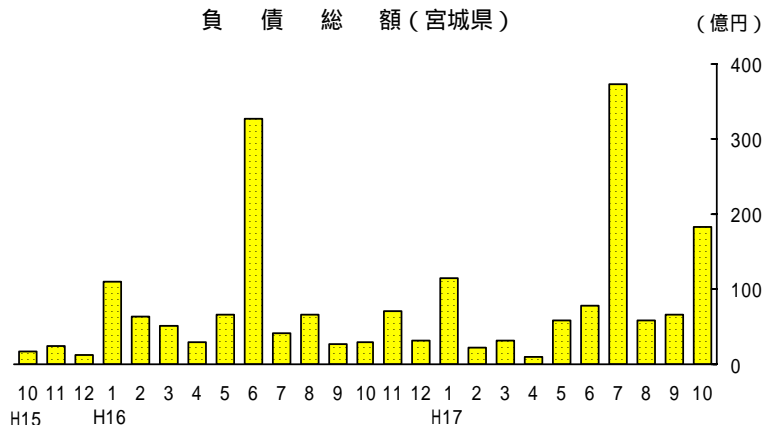
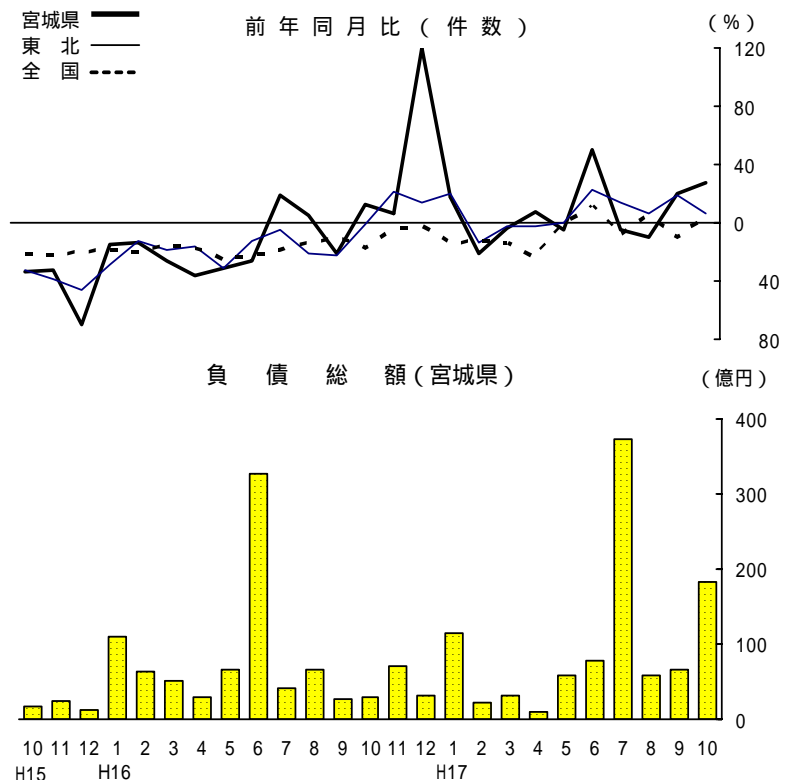
6 企業倒産

10月の企業倒産（負債総額1,000万円以上）は23件で前年同月比27.8%の増加となり、2か月連続の増加となった。負債総額は182億3,900万円で、前年同月比522.9%の大幅な増加となり、2か月連続の増加となった。

これにより平成17年の負債総額の累計は993億6,000万円となり、昨年を超え、2年ぶりに1,000億円超をうかがわせる状況となった。大型倒産（負債総額10億円以上）は2件発生し、6か月連続の発生となった。

不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、赤字累積）は構成比が73.9%を占め、高水準で推移している。

（資料：株東京商工リサーチ）



宮城県景気動向指数（概要）

1 概況

9月の景気動向指数は、先行指数66.7%、一致指数75.0%、遅行指数20.0%となった。
 先行指数は7か月連続で50%を上回った。一致指数は2か月連続で50%を上回った。遅行指数は3か月振りに50%を下回った。

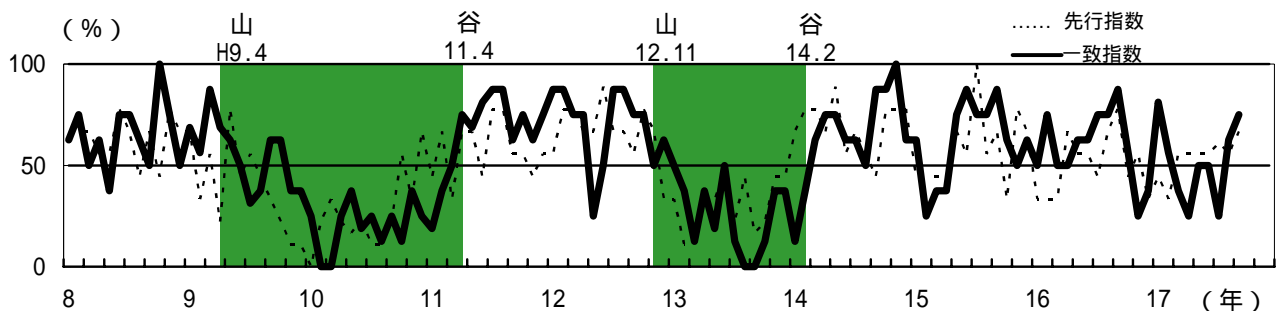
2 景気動向指数変化方向表

系列名		平成16年		17年									
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
先行系列	1 新規求人数	+	-	+	-	+	-	-	+	+	+	-	1
	2 所定外労働時間指数(製造業)	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-	-	2
	3 生産財生産指数	-	-	+	-	-	-	-	+	+	+	+	3
	4 自動車新規登録台数	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	+	4
	5 新設住宅着工床面積	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	-	5
	6 建築着工床面積	+	+	-	-	+	+	+	+	+	-	+	6
	7 企業倒産件数	+	-	-	+	+	+	-	-	-	-	+	7
	8 全銀貸出残高	+	+	-	+	+	+	+	-	+	+	+	8
	9 中小企業業界景況感	-	-	-	-	-	+	+	-	0	+	+	9
	拡張系列数	5.0	3.0	4.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.5	5.0	6.0	
採用系列数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9		
先行指数(DI)		55.6	33.3	44.4	33.3	55.6	55.6	55.6	55.6	61.1	55.6	66.7	
一致系列	1 雇用保険受給者実人員	+	+	+	+	-	-	+	-	-	-	+	1
	2 有効求人倍率	+	+	+	0	-	-	-	+	+	+	-	2
	3 人件費比率(製造業)	-	-	0	-	-	-	-	+	-	+	+	3
	4 鉱工業生産指数	-	-	+	-	+	-	-	+	-	+	+	4
	5 投資財生産指数	-	+	+	-	-	+	+	-	-	+	+	5
	6 大口電力使用量	-	-	+	+	+	-	+	-	-	+	+	6
	7 大型小売店販売額	-	-	+	+	+	-	-	-	+	-	+	7
	8 輸入通関実績	-	-	-	+	-	+	+	+	-	-	-	8
	拡張系列数	2.0	3.0	6.5	4.5	3.0	2.0	4.0	4.0	2.0	5.0	6.0	
	採用系列数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
一致指数(DI)		25.0	37.5	81.3	56.3	37.5	25.0	50.0	50.0	25.0	62.5	75.0	
遅行系列	1 常用雇用指数(製造業)	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	-	1
	2 消費者物価指数(仙台市)	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	-	2
	3 勤労者世帯消費支出(μ)	-	-	+	+	+	-	+	-	+	-	-	3
	4 営業倉庫保管残高	+	+	+	-	+	+	-	-	-	+	+	4
	5 法人事業税収入	+	+	-	+	+	+	-	-	+	+	-	5
	拡張系列数	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	4.0	3.0	1.0	3.0	3.0	1.0	
採用系列数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
遅行指数(DI)		60.0	60.0	60.0	60.0	80.0	80.0	60.0	20.0	60.0	60.0	20.0	

(注) 1 季は季節調整済(センサス局法 - 11)。前は前年同月比。逆は逆サイクル。

2 各系列の変化方向は、3か月前との比較による。

3 景気動向指数グラフ



全国・東北等の景況

(下線部は前月からの主要変化部分。⇨は変化方向)

1 全国の景況

月例経済報告(内閣府) ⇨ ⇨ ⇨ 11月21日 [<http://www.cao.go.jp/>]
前々月 前月 当月

景気は、緩やかに回復している。

- ・企業収益は改善し、設備投資は増加している。
- ・個人消費は、緩やかに増加している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・輸出は持ち直し、生産は横ばいとなっている。

先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

10/12 景気は、緩やかに回復している。

- ・企業収益は改善し、設備投資は増加している。
- ・個人消費は、緩やかに増加している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・輸出は持ち直し、生産は横ばいとなっている。

先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

金融経済月報(日本銀行) ⇨ ⇨ ⇨ 11月21日 [<http://www.boj.or.jp/>]
前々月 前月 当月

わが国の景気は、回復を続けている。

輸出は緩やかな増加を続けており、生産も、振れを伴いつつ増加傾向にある。また、企業収益が高水準で推移するもとで、設備投資は引き続き増加している。雇用者所得も、雇用と賃金の改善を反映して、緩やかな増加を続けており、そのもとで個人消費は底堅く推移している。住宅投資も、強含みの動きとなっている。この間、公共投資は基調としては減少傾向にある。

先行きについても、景気は回復を続けていくとみられる。

10/13 わが国の景気は、回復を続けている。

輸出は緩やかな増加を続けており、生産も、振れを伴いつつ増加傾向にある。企業収益が高水準で推移し、業況感にも小幅な改善が見られる中、設備投資は増加を続けている。雇用者所得も、雇用と賃金の改善を反映して、緩やかな増加を続けており、そのもとで個人消費は底堅く推移している。また、住宅投資はこのところ増加の動きが見られる。この間、公共投資は基調としては減少傾向にある。

先行きについても、景気は回復を続けていくとみられる。

2 東北の景況

東北経済産業局管内の経済動向(東北経済産業局) ⇨ ⇨ ⇨ 11月21日 [<http://www.tohoku.meti.go.jp/>]
前々月 前月 当月

- ・鉱工業生産は、横ばい傾向で推移しているものの、一部に改善の動きが見られる。
- ・個人消費は、全体として弱含んでいるものの、一部に持ち直しの動きが見られる。
- ・住宅着工戸数は、低調な動きではあるが、減少幅が縮小している。
- ・公共投資は、全体としては低調な動きではあるが、国関係事業に動きが出ている。
- ・設備投資は、製造業を中心に積極的な投資の動きが広がっている。
- ・雇用は、地域差はあるものの、緩やかな改善の動きが見られる。
- ・企業倒産は、倒産件数の水準は落ち着いたものの、増加している。

管内の景気動向は、住宅着工、公共投資は低調、個人消費も弱含んでいるが、一部に持ち直しの動きがみられる。また、鉱工業生産は横ばい傾向で推移しているものの一部に改善の動き、設備投資は製造業を中心に積極的な投資の動きに広がりが見られ、雇用には緩やかな改善の動きがみられる。

このように、全体としては一部に弱い動きがあるものの、緩やかに改善しつつある。

また、地域別にみると、輸送機械等が好調な南東北において、生産面に明るい動きがみられており、消費も仙台市など都市部を中心に持ち直しの動きがみられ、首都圏における景気回復は東北管内にも及びつつある。

10/18 管内の景気動向は、住宅着工、公共投資は低調、個人消費も一部に持ち直しの動きがみられるものの全体として弱含んでいる。一方、鉱工業生産は横ばい傾向で推移しているものの一部に回復の動き、設備投資も製造業を中心に積極的な投資の動き、雇用にも改善の動きがみられる。

このように、全体としては横ばいのなかで一部に改善の動きがみられている。

また、地域別にみると、電子部品・デバイス、輸送機械等に牽引される南東北において、生産や雇用面で明るい動きがみられており、消費も仙台市など都市部を中心に持ち直しの動きがみられ、首都圏における景気回復は東北管内にも及びつつある。

管内の金融経済概況（日本銀行仙台支店）   

11月2日 [<http://www3.boj.or.jp/senndai/index.html>]

管内（宮城、岩手、山形）経済は、地域、業種、企業間の格差を伴いつつも、緩やかに持ち直しつつある。

最終需要の動向をみると、個人消費は浮揚感に乏しいながらも、徐々に底固さが窺われつつあるほか、住宅投資も貸家を中心に強含みとなっている。一方、公共投資は減少傾向にある。




こうした中、生産動向は、IT関連分野で回復に向けた動きが続いており、全体として緩やかに持ち直しつつある。

10/3 管内経済は、地域、業種、企業間の格差を伴いつつも、緩やかに持ち直しつつある。この間、管内企業の景況感は、製造業、非製造業ともに幾分改善している。

最終需要の動向をみると、2005年度の設備投資計画は、製造業を中心に高水準で推移している。また、個人消費は浮揚感に乏しいながらも、耐久消費財の販売が堅調に推移しており、徐々に底固さが窺われつつある。住宅投資は横這い圏内にある一方、公共投資は減少傾向にある。

こうした中、生産動向をみると、全体としては横這い圏内ながら、IT関連分野で回復に向けた動きがみられている。

3 宮城の景況

県内景気の動き（七十七銀行）    11月21日 [<http://www.77bank.co.jp>]

9月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、一部に上向きの動きがみられるものの、なお、足踏み感がうかがわれるものとなっている。生産面では、鉱工業生産が概ね横ばい圏内の動きとなっている。一方、需要面では、個人消費が一部に上向きの動きがみられるが、総じて一進一退の動きとなっている。住宅投資は一部に増加の動きがみられるが、公共投資は引き続き低調に推移している。また、雇用情勢は、足元弱めの動きとなっている。

この間、企業の景況感は改善しているが、業況については非製造業を中心に低迷が続いている。

10/24 8月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、一部に上向きの動きがみられるものの、依然として足踏み状態となっている。生産面では、鉱工業生産がなお高水準を維持しているが、足元では引き続き弱めの動きとなっている。一方、需要面では、個人消費が一部に上向きの動きがみられるが、総じて一進一退の動きとなっている。住宅投資は一部に増加の動きがみられるが、公共投資は引き続き低調に推移している。また、雇用情勢は基調としては持ち直しの動きにあるものの、足元弱めの動きとなっている。